

事業名	宮城交流ツアー6
申請団体	特定非営利活動法人大空へ飛べ
協働団体	きずなFプロジェクト
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

宮城交流ツアー6(8月23日～25日宮城県石巻市、七ヶ浜町、仙台市、名取市)

- ・石巻市震災遺構大川小学校にて佐藤敏郎氏（大川伝承の会共同代表）から、震災時の津波の状況や、被災した先生・生徒の様子等の震災関連の講話を聞いた。
- ・「きずなでつながる音楽フェス with 大空へ飛べ」（七ヶ浜町）に参加し、地元の音楽団体と交流を行った。
- ・「御神楽伝承クラブ天翔」（東松島市）や「きずなFプロジェクト」（七ヶ浜町）の指導者やメンバーとの交流会を行った。
- ・日曜日に開催される閑上朝市（名取市）で、コンサートと募金活動を行った。
- ・閑上の記憶（名取市）代表の丹野祐子氏から、震災後の街の変化等の震災関連の講話を聞いた。
- ・仙台市「2024 全国教育のうたごえ祭典 in みやぎ」における、「祭典合唱発表会」と「語り継ぐ平和と希望の音楽会」に参加・出演し、全国から参加した音楽団体と交流した。
- ・参加者アンケートを取り、取組みへの総括や今後の活動の在り方などについて検討を行った。

【活動の成果や感想】

- ・2011年から2024年までの13年間にわたって交流を続けてきた宮城の方々と「きずなでつながる音楽フェス with 大空へ飛べ」を行い、また「2024 全国教育のうたごえ祭典 in みやぎ」にも参加するという2つのイベントが実現したことはとても素晴らしいことであった。
- ・いろんな人から「大空の方ですね。とってもすばらしかった。」などと声を掛けてもらえたことが嬉しかった。団体紹介では、しっかり「大空」をアピールしてきた。全国の方に、「大空へ飛べ」のことを知っていただけたと思う。
- ・13年間にわたり、東日本大震災で被災した宮城との交流を通して学んだことを、能登半島地震で被災した輪島市門前町への支援に生かしていきたいと思う。また、宮城の若者たちと「大空へ飛べ」の若者たちの交流を推進していきたい。

事業名	性暴力根絶を願って 子どもの性暴力 その裏にある「性的グルーミング」を知ろう
申請団体	富山 CAP (キャップ)
協働団体	子ども夢フォーラム
申請区分	広域交流事業



【活動内容、活動の成果や感想】

- ・子どもへの性暴力根絶を目指す活動に、多くの方々が他県から参加し、当初の目標である、「子どもへの性暴力防止」に向けたムーブメントを北陸から達成できたと感じています。
- ・これまで「性暴力」という言葉を避けていた人々が、この問題について考えるようになり、社会問題として捉えてもらえるようになったと感じています（アンケートより）。
- ・今回のシンポジウムでは、大船榎本クリニック（鎌倉市）の齊藤章佳氏を講師に迎え、子どもが身近な人から性暴力の被害を受けやすい状況（「性的グルーミング」）や、加害者の心理についても学びました。この経験を通じて、参加者は性暴力根絶に向けた意識を高め、大きな社会問題に向き合うことができたと感じています。
- ・研修の後半では、ジャニーズの性加害問題に関わった中村一也氏と齊藤氏の対談が行われました。中村氏の話を通じて、被害者の立場からの声を直接聞くことができ、多くの参加者が勇気もらったと感じたとの意見が寄せられました。特に、中村氏の勇気ある行動が、他の子どもたちにも影響を与え、一步を踏み出すきっかけになったという話があり、子どもの力の凄さを感じました。
- ・今後も他団体と連携し、北陸富山から子どもたちへの暴力防止について社会に発信していきたいと考えています。

事業名	都心の若者集まれ！大自然の中でともに汗を流し、笑い、語り、いつの間にか地域貢献！
申請団体	特定非営利活動法人北陸青少年自立援助センター
協働団体	特定非営利活動法人 good！
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

当法人が運営するピースフルハウスはぐれ雲の寮生と都心の若者が、寝食を共にし、農業体験を中心に、協力して作業する5日間の合宿型ワークキャンプを行った。

コンバインの侵入路の草刈り、圃場のねむの木取り、乾燥調製後のお米の袋詰め、袋詰めしたお米（1袋30Kg）を地主のお宅へ配達・・・と多くのことに取り組んだ。

【活動の成果や感想】

多くの若者が、米作りの一環の最終段階に携わり、自分たちが食べている毎日の米がどのように生産されていることを、大勢での協働作業を通じて体験し、働くことの充実感を味わった。

最終日の打上げには、地元住民も参加し、交流した。都会の若者が農業に取り組むことは、農業地域にとっては有難く、また、嬉しいことである。こうした触れあいと農業体験への感動が、この先も続くようにこのプログラムを継続していきたいと考えている。

<参加者の感想>

田んぼの粟を取ってもらって非常に助かったと聞いて、疲れが吹きとんだ。

とにかく、大勢で作業してご飯を食べて、楽しかった。

新米が美味しかった！その美味しさに驚いた。

事業名	親と子のリレーションシップほくりく 2024in ふなはし こども発【こどもまんなか社会】の実現へ！
申請団体	とやま子どもの権利条約ネット
協働団体	認定NPO法人おやこの広場 あさがお
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

「とやま子どもの権利条約ネット」と「認定NPO法人 おやこの広場 あさがお（白山市）」が協働し、こども一人ひとりが輝く社会をつくるために、子どもの権利条約について学ぶ機会を提供するとともに、市民が「こどもまんなか社会」を自分ごととして捉え、主体的に考え行動できるような基盤作りを行うため、舟橋村との共催で「親と子のリレーションシップほくりく 2024in ふなはし」を開催した。

【活動の成果や感想】

本事業では、子どもの権利条約をよく知らなかった人にも、知ってもらう機会となり、基調講演を通して理解を深めることができた。また、その後のパネルディスカッションでは、発言した人だけでなく、聴いていた人も、そのやり取りの会話の内容を自分に引き寄せて考えながら参加していたことがアンケート結果からも読み取れた。舟橋村のこどもに関する政策から学ぶと共に、子どもの権利条約を通して『こども』も『おとな』も輝けるまちづくりについて、行政や市民（こども・おとな）、各種団体関係者などの多様な人々が立場を超えてフラットに対話できる機会となったと感じた。



<2024年10月4日 富山県庁記者室にて>

事業名	第24回アミザーデサッカー大会
申請団体	アミザーデ実行委員会
協働団体	有限会社サン・フット企画
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

ウォーキングフットボール交流会、地域別交流ゲーム、サッカークリニック、アミザーデミーティング、フレンドリーマッチ、ドリームマッチの開催

【活動の成果や感想】

使用できる会場や指導を受ける機会など、障害者がスポーツに参加しやすい環境の整備がまだまだ遅れている中、芝のグラウンドで、著名な指導者を招聘し、その技術を学ぶともにプレイするという参加者の夢を、今回叶えることができた。

また、健常者のスポーツ大会と、障害者のふれ合い大会を別ではなく、一緒に実施できたことによって、様々な障害への理解を深める機会に繋がった。特に、障害者はサッカーを通して、現代社会のルールに触れ、この大会で役割を持ち、遂行できたことで、大きな自信へと繋がった。

今年度、ボランティアは一段と広がりを見せ、新たな協力者が増えた。例年、県外からのボランティアやJFCAセミナーダイレクター 藤原明夫氏の指導等、日本サッカー協会から協力、支援をいただきながら、今年構築できた協力体制を継続できるよう、今後も連携していきたいと思っている。

次年度に向けては、この活動に寄り添い大会を支えたボランティア、毎年参加し自分に挑戦した参加者の様子について、広く全国に発信することで、参加者を募るとともに、障害者スポーツへの理解と協力を深めていく。

参加者の熱い思い、ボランティアの温かく強い思いを受け、来年は、日本サッカー協会、県サッカー協会、行政、協働者有限会社サン・フット企画、民間等の多くの協力をいただきながら、一層、熱い思いで進めていきたい。

事業名	「全国ものづくりミーティング（仮称）」開催事業
申請団体	特定非営利活動法人 T.up
協働団体	Hachioji Future Association (HFA)
申請区分	広域交流事業



【活動内容】

一橋大学名誉教授関満博氏に師事し、全国各地で独自の経営者や支援事業者、自治体職員等が参加した独自の活動をしている団体が一堂に会し、自社の経営課題や地域課題の解決に向けたヒントと共感を得る大会（「関塾まちづくり会議@高岡」「非県都工業集積都市における将来展望オンライン放談会」など）を開催。

「関塾まちづくり会議」では、分科会と基調講演を開催したが、開催地に属した地域課題を挙げることで、県内からの一般参加者が幅広く参加できるように実施するとともに、主催団体と協働団体が取り組む独自の活動の共通点及び違いについて討論する座談会を開催することで、地域企業が自社の活動を活性化するためには、地域や全国での横軸連携や社会課題の解決に向けた取り組みが重要であり、その必要性について、会場からの参加も促しながら、様々な視点からの話題を共有。

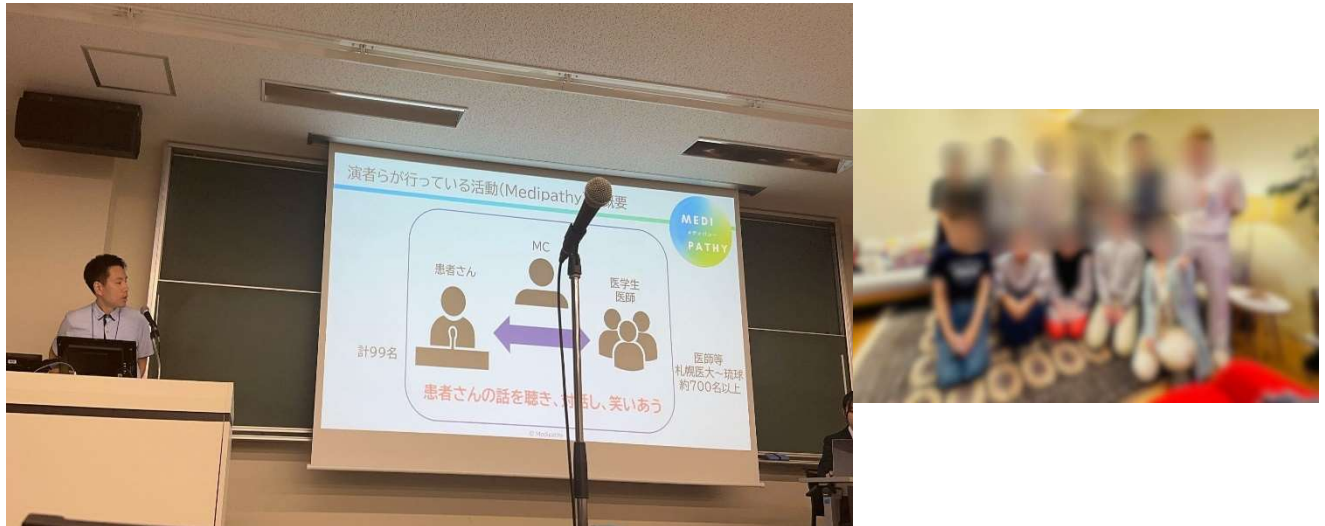
「非県都工業集積都市における将来展望オンライン放談会」は、「関塾まちづくり会議@高岡」の開催に先駆けてオンラインで開催。参加団体のうち開催地高岡市と地勢や産業構造等が同種の地域の参加を呼びかけ、企業、企業人の社会活動や企業間及び自治体との連携等について現状と課題等を共有し、「関塾まちづくり会議」当日の充実に繋げた。

【活動の成果や感想】

今回の参加者のうち、約 80%が高い満足度を示していた。特に、多くのテーマを設けた分科会は、約 90%の方が高い満足度を示したことから、参加者の開拓とマインド醸成に繋がり、一定の成果があったと考える。

今回の開催をきっかけに、次年度、同種の大会の開催が決定されたとともに、主催団体をはじめ、各地の複数の団体から、地域の中小企業が主体となり行政等と連携を図りながら自社の課題解決や地域課題解決に向けた各地の状況に応じた独自の取り組みについて検討するとの発言等もあったことから有意義な大会であったと考える。

事業名	がん患者と医学生・医師の対話から生まれるウェルビーイング
申請団体	Medipathy
協働団体	一般社団法人がんサポーターズ
申請区分	ワカモノ活動促進事業



【活動内容】

がん患者と医学生の交流会では、富山県内外の医学生 13 名が参加し、がん患者との直接的な対話を通じて患者理解を深める機会を設定しました。本事業について、医学教育学会において、全国の医学部教員約 30 名に対し、富山発の医学教育の事例として、患者から学ぶ一患者の語りを聞き対話することから医学生が得るものと題して発表し、視察と討論の会でも全国規模のネットワーク構築を進めました。さらに、製薬コンソーシアムでの登壇により、東京や世界拠点を持つ製薬企業社員 40 名に本事業の意義を発信しました。これらの活動を通じ、がんサポーターズの協力の下、がん患者会同士や他の患者会との交流が生まれ、地域や疾患の枠を超えたつながりを構築しました。

【活動の成果や感想】

今後は、がん患者に限らず希少疾患患者会と連携し、支援が行き届きにくい分野への取り組みを広げていきます。また、今回の発表や活動を基に、富山発の教育モデルを全国の医学生や教育機関へさらに普及させるとともに、製薬企業と患者、医学生が共同で学べる場を大規模に展開していくことを目指します。全国紙への掲載も予定されており、社会全体に向けた認知度向上や効果も期待されます。

事業の実績は、個人や団体起点の発表にとどまり、富山県発というのが見えにくいため、富山県発という事例を県、大学といった公的機関からもバックアップしていただくと、関係人口 1,000 万人により寄与できるのではないかと思います。